

# センターだより

第69号

令和5年1月11日 発行

Aomori Prefectural School Education Center  
青森県総合学校教育センター

〒030-0123 青森市大字大沢字野田80-2  
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

## 「あおもり教育研究発表会2022」の様子

令和4年11月18日（金）に「あおもり教育研究発表会2022～未来につなぐ青森の教育～」が行われました。

116名の方に御来場いただき、盛大に開催することができました。講師、発表者、御来場の皆様、誠にありがとうございました。



### 【センター研究発表】

「学校におけるICTの効果的な利活用」という全体テーマのもと、当センターの6つの研究グループが発表を行いました。各教科等の特性を踏まえた実践的な内容の研究発表となりました。これからも研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。今年度のステージ発表は以下の6グループでした。

- ◆国語グループ
- ◆理科、物理、化学、生物、地学グループ
- ◆音楽、図画工作、美術グループ
- ◆体育、保健体育グループ
- ◆家庭、技術・家庭グループ
- ◆外国語グループ

### 【研究員研究発表】

研究員研究発表では、8名の2年目研究員が研究発表を行いました。教科指導や生徒指導、ICT等に関する研究の成果が示されました。参加者からは、活発に意見や質問が出され、効果的な指導法について学ぶ有意義な機会となりました。

- ①小学校高学年の対人関係の適応感を高める研究  
－「他者とよりよく関わる力育成プログラム」の作成と実践を通して－（教育相談課 高田 秀行 研究員）
- ②自立活動の時間における指導を核とした「知的障害のある児童の感情理解を促す指導」に関する研究  
－対人関係面に課題のある特別支援学級在籍A児への授業実践を通して－（特別支援教育課 佐々木 明子 研究員）
- ③小学校社会科「国や地方公共団体の政治」の単元において、多角的に考え、選択・判断する力を養う指導法の研究  
－二つの共感の側面を生かして様々な立場で感じ考える活動を通して－（義務教育課 三浦 健太郎 研究員）
- ④援助希求能力と援助能力を育む指導法の在り方  
－中学生を対象とした「SOS教育プログラム」の作成と実践を通して－（教育相談課 若杉 知明 研究員）
- ⑤小学校中学年における1人1台の情報端末の利活用に対応した情報モラル教育の実効性を高める研究  
－児童が自分のこととして取り組めるプログラムの実践を通して－（産業教育課 工藤 敦 研究員）
- ⑥中学校理科「電流と電圧」の単元において、学習意欲を高める指導法の研究  
－学習内容を生徒が日常生活や社会に関連させる活動を通して－（義務教育課 花田 耕平 研究員）
- ⑦中学校における生徒にとって安心感のある学級の形成を目指した指導の研究  
－HSP傾向への理解を取り入れた教育プログラムの作成と実践を通して－（教育相談課 下山 翔 研究員）
- ⑧小学校5学年における「他者とつながる力」を高めるための研究  
－アサーションの考え方を基本とした実践を通して－（教育相談課 山口 星 研究員）

ご清聴  
ありがとうございました



## 【県内ICT活用実践発表】

ICT活用実践発表では、「1人1台端末をフル活用した令和の教室」と題し、つがる市立森田小学校 教諭 前多 昌顕 先生に実際の子供たちの1日の様子を紹介していただきました。「デジタルでもアナログでもできることはまずはデジタルで」という先生の実践では、子供たちが文房具の1つとしてタブレットを使いこなしており、その結果「圧倒的な時短とやりとりされる情報量の増加」という効果が得られたということでした。1人1台端末を活用しきれていないとお悩みの先生方に、多くのヒントをいただけるお話でした。



## 【講演会】

今年度はオンラインでの開催となりましたが、放送大学 教授 中川 一史 先生を講師にお迎えし、「GIGAスクールと子どもの学びと現状と展望」と題し、情報活用プロセスとそのポイントについて御講義いただきました。中川先生の「それはいつまでやるの？」の問いかけによって、これまでの教育活動を振り返りながら確認することができました。さらに、デジタル教科書や端末活用についてのメリットやGIGAスクール構想について整理していただき、これからの教師の役割や学校のあり方等について考えるきっかけとなりました。

来場者からは「詳しい実践例を数多く紹介していただきありがたかった」「ICT活用の根幹にあたる学ばせ方、授業の構築についても詳しく話していただき、参考になった」「ICT活用実践発表とマッチしているところがあり、納得させられる」等の感想を多くいただきました。



# センターセミナーの様子

## I 児童生徒への支援

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

7月30日(土)に今年度1回目となるセンターセミナーIが開催され、これまでの経験を踏まえ教師や家族の具体的な対応をまとめた「FR式不登校対応チャート」を中心に、「不登校児童生徒への支援」というテーマで御講演いただきました。

花輪先生が出会った数多くの不登校児童生徒や保護者教師との事例をもとに、子ども達の自立に向けて、周囲の大人はどのような支援を行えばよいのかを、具体的な言葉や行動で示唆していただきました。

セミナー後のアンケートからは、今後の不登校支援への実践について意欲的に書かれている内容が多く寄せられました。

### 【参加者の感想】

・「形だけの登校ではなく、自立に向けた支援の延長線上に学校復帰がある」という言葉、とても納得できました。生徒と最も関わりをもてる学級担任としてできることをやっていきたいと思いました。

・生徒にはいけない対応を数多くしてきたとこのセミナーから知ることができました。研鑽します。



## II 子どもと教師の未来を拓く総合戦略

甲南女子大学 教授 村川 雅弘 氏

8月20日(土)に甲南女子大学教授の村川雅弘氏をお招きして、「子どもと教師の未来を拓く総合戦略」と題して開催しました。村川教授から「主体的・対話的で深い学び」による授業づくりや学級づくりのポイント、カリキュラムマネジメントの側面を基に実践に活用できる事例について、詳しく紹介していただき、大きな学びを得ることができました。

### 【参加者の感想】

・校内研修や教育課程、指導案の検討等にさまざまな種類のワークショップ型研修で行うことが有効であると感じました。

・授業者自身が分析を言語化したり、子どもも研究授業を参観したりするのも、授業を変えていくためには有効であると感じました。



# 適応指導教室の活動紹介（教育相談課）

適応指導教室は、学校に行きたくても行けない児童生徒の不安や悩みを軽減し、人間関係の改善等の適応能力を育み、社会的自立を目的に支援を行っています。

## 学びタイム

自分の得意科目の更なる強化や苦手箇所やつまずきの克服、定期テストや進学対策など、各々の目標に向かって学習に励んでいます。指導員や担当相談員が支援や補助にあたります。

昼食・休憩後には、15分間のパワーアップタイム（国・数・英）が行われ、基礎基本の定着を目指した学習に取り組みます。



## 創作活動

意欲・自主性・創造性等を育むために、様々な創作に取り組んでいます。（イラスト、俳句作り、切り絵、落ち葉アートなど）また、文化祭前には、各部屋の装飾、展示するもの（消しゴムはんこ、うちわ等）を創作しています。



## ふれあいタイム

コミュニケーション能力や良好な人間関係を築く力を身につけさせるために、人間関係づくりプログラム（対人関係プログラム、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループ・エンカウンターなど）を行っています。



## N I E

新聞を読み、興味や関心をもった記事を切り抜き、感じたことや学んだことなどを、自分なりにまとめたコメントを添えて掲示していきます。社会の今を知るとともに、郷土への理解を深めながら表現力を養っていきます。



## 英会話

A L Tを招き、ネイティブな発音に触れながら様々な活動を通して、楽しく読み書き、発音のスキルを高める活動を行っています。また、A L Tの出身地や様々な国についての文化を学ぶ機会にもなっています。



## 動物ふれあい体験

動物愛護センターで犬のしつけ訓練・散歩など、動物とのふれあいをしています。動物とのふれあいを通して、心を癒し、温かな交流を図ることで、コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身に付ける機会になっています。



## 「文化祭」

自分たちでテーマを決め、今年度はハンドベルや書道パフォーマンスの発表を行いました。準備から実施に向けてまで、自主性・意欲・人間関係等を育むための内容になっています。



日々の学びと様々な経験やふれあいで、社会的自立を支えます。